授業科目等の概要

（ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレル素材論	アパレルの主素材である布地の種類と性能の基本を理解させ、応用力を養わせることを教育目標とする。 布地を理解し商品対応するには、布の構成要因となる繊維、糸、織、編、レース、染色、加工などの各々の種類、性質などを複合的に捉える必要があるため、授業は繊維から系統的に展開し、講義に加え、演習・実験・実習を含め理解を促し、実践的なものにする。レベルは、テキスタイル科として今後の教科目等の礎を得られる設定である。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			染色演習	実験実習・レポート製作を通して各染色技法、加工方法を習得し、新たな発想力、表現力を養う。 素材選択から染色加工に至るまでのファッション衣料としてのテキスタイルの総合理解を図る概論、基礎実験、工芸染色、夏期休暇課題、展示会見学	1・通年	120	4		○		○		○		
○			ウィービング基礎演習	前期は三原組織を中心にサンプル制作を通じ、織物の構造を理解し、制作に必要な知識・技術を習得する。 前期後半から後期にかけてはマフラー・厚地織物サンプル・身につける布をテーマとした自由制作により、素材・組織選びなど用途に合わせた織物の企画をすることで、風合い・機能・効果を習得する。	1・通年	120	4		○		○		○		
○			テキスタイルクリエイションⅠ	テキスタイル製作において必要な基礎カリキュラムの充実をはかる。 作品制作を通して、「基礎知識」「基礎技術」「基礎デザイン」が習得できるようにする。 テキスタイルワーク、日傘制作、民族衣装制作	1・通年	60	2			○	○		○		
○			自由研究Ⅰ	「自主性」「独創性」「表現力」と共に「協調性」の向上を目的とする。 自由研究ならではの講義および実習を導入する。研究内容設定、研究調査、グループ企画・制作、コラボレーション授業、 コンテスト活動、ポートフォリオ制作、コラボレーション企画、工場・企業訪問などから比重の大きい項目で構成する。	1・後期	30	1			○	○		○		
○			服飾造形Ⅰ	服飾造形としての一般知識、原型の作図方法、縫製の基礎を理解させる。 衣服制作をとおして衣服の構造を理解し、 ファッション衣料としてのテキスタイルを関連させ指導する。 衣服造形の基礎、服飾造形概説、スカートの知識・縫製、シャツブラウスの基礎知識・縫製	1・通年	120	4			○	○		○		
○			ドレーピングⅠ	立体裁断の基本的考え方、基礎的技術・知識を理解させる。 布目の重要性・ボディとパターンの関係、ドラフティングの仕方、平面から立体への布のとらえ方、視覚訓練の重要性。 立体裁断の基礎、タイトスカート、身頃の基礎、シャツ・ブラウス	1・通年	60	2			○	○		○		
○			ニット基礎	ハンドニットの一般知識（素材・道具・編み地）と棒針、鉤針編み、家庭用手編み機の理解と作品作りの知識を習得する。テキスタイル研究の一環としてニットの可能性を知り、テキスタイルの幅を広げる。	1・後期	30	1	△	○		○		○		
○			色彩論・演習Ⅰ	テキスタイルデザインの中で色彩を活用することを想定し、基本的な配色方法を中心に色彩の基礎を学習する。	1年・通	60	2	○	△		○		○		
○			デッサン	様々なものの見方を通じ、描写の楽しさを再認識する事と合わせ、創造力を伸ばす為の観察力・イメージを見る側に伝える為の基本描写力・着装画の土台となる立体造形の描写力向上を目的とする。	1・前期	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ファッションデザイン画Ⅰ	ファッションデザイン画としての人体のバランスを理解し、基本となる衣服を身に着けた時の量感、フォルムの表現を習得する。 服の構造、デザインを第三者に伝わるデザイン画のスキルを身に付ける。	1・通年	60	2			○	○		○		
○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・前期	30	1	○			○		○		
○			服飾手芸	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にしてテキスタイル、服飾、小物造形などに応用発展できるようにする。 また、素材・テクニック・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな想像力を身につけることを目標とする。	1・通年	60	2			○	○		○		
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を解説する。20世紀以降、デザイナーの時代が始まり、合わせてデザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からファッション史の理解を深める。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			グラフィックワーク	Photoshopの基本操作を習得し、画像の切り抜き・合成ができるようになる。 Illustrator初心者を対象に、ソフトの基本操作を習得し、ペンツールの描画方法、連続柄の作成方法、回転・反転ツール等の操作を身につける。	1・通年	60	2		○		○		○		
○			キャリア開発Ⅰ	・就職活動や社会に出た際に、自己の能力を充分に発揮できるようになるための社会人基礎力を身に付ける ・《伝える力》《聴く力》《主体性》≪協調性≫《意見の違いや立場の違いを理解する力》をグループワークによって体感し身に付ける ・将来のビジョンを明確にすることで就職活動に向け、今の行動レベルをアップする	1・後期	30	1		○		○		○		
○			特別講義Ⅰ	通常カリキュラムの範囲外における、テキスタイルに関する情報や知識を学ぶ。 クリエイティブ・テキスタイル、トレンド、服装解剖学、VMD、身体表現、デザイン、立体、造形、編集	1・通年	60	2			○	○		○		
○			校外研修Ⅰ	団体行動の規律やマナーを守ることをとおし、協調の精神を養う。ゲームに取り組むことをとおし、学生間のコミュニケーションを深め、相互理解を深める。 学外にて多くのものを見聞することにより視野を拡げ、社会人としての不可欠な教養とマナーを育む。	1・前期	30	1	○				○	○		
学年合計				18科目	1080単位時間（　36単位）										

授業科目等の概要

（ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			テキスタイル論	アパレル素材論Ｉで学んだ基礎知識をもとに講義・演習・実験を通し、素材特性を最大限に引き出したより完成度の高い制作をはじめ、取扱い等を含めた素材知識を身につける事を目標とする。	2・通年	60	2	○			○		○		
○			テキスタイルプランニング	ファッションテキスタイル制作において、プランニングの重要性を理解する。素材の基本から最新の情報までを紹介し、「今求められているのは何か」を掴むことにより、明確な目的を持ったプランニングを目指す。あくまでも実学を志し、幅広い視野の知識を身に着け、豊かな発想力を生かせるように、総合的ノウハウを取得する。	2・後期	30	1			○	○		○		
	○		染色演習（選択）	実験実習・レポート製作を通して各染色技法、加工方法を習得し、新たな発想力、表現力を養う。 素材選択から染色加工に至るまでのファッション衣料としてのテキスタイルの総合理解を図る 概論、基礎実験、工芸染色、夏期休暇課題、展示会見学	2・通年	120	4		○		○		○		
○			プリントデザイン演習Ｉ	手捺染によるスクリーンプリントとパソコンを使用したデジタルプリントのそれぞれの仕組みと特徴を把握し、繊維業界に 通じる実践的な技術を修得することを目標とする。前期はスクリーンプリント・デジタルプリントともに、一連の演習で基礎技術を身につける。後期のスクリーンプリントは応用的なプリント・加工法を用い、デジタルプリントはパソコンの操作技術を向上させ、それぞれの技法で制作物の完成度を上げる。	2・通年	120	4		○		○			○	
	○		ウィービング基礎演習（選択）	前期は三原組織を中心にサンプル制作を通じ、織物の構造を理解し、制作に必要な知識・技術を習得する。 前期後半から後期にかけてはマフラー・厚地織物サンプル・身につける布をテーマとした自由制作により、素材・組織選びなど用途に合わせた織物の企画をすることで、風合い・機能・効果を習得する。	2・通年	120	4		○		○		○		
○			ウィービングデザイン演習Ｉ	1年次のウィービング基礎実習で学習した基礎に加え、さまざまな織物技法を習得する。それらの知識や技術を用いてアパレルやファッション小物など製品の素材としてのテキスタイルを意識した織物制作を行う。	2・通年	120	4		○		○		○		
○			テキスタイル図案Ｉ	前期は実技課題を通じてテキスタイル図案の基礎である送り（リピート）とは何かを学び、同時に制作過程において画材の取り扱い方・アイデアを表現するための技術を習得する。後期はテーマ別の図案作成により季節・ターゲット・用途などに合わせたデザインを考え表現する事で実務に生かせる能力を身につける。	2・通年	60	2			○	○		○		
○			テキスタイルクリエイションⅡ	デザインやアイデアを実現する。目的を実現するための技術を個々が学ぶ中で、その達成のために様々な実験を行い、知識や技術を学ぶと共に、同級生が同じく製作する作品の経験を共有しつつ、テキスタイル表現の多様性を学ぶと共に、製作におけるそれらの経験を重ねることにより、具体的なデザインの方法を学ぶ。	2・通年	120	4			○	○			○	○

授業科目等の概要

（ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		自由研究Ⅱ（選択）	各自が研究テーマを決めて、歴史、特徴、技法、デザインなどの情報収集、資料活用し実物作品製作やサンプルのファイル資料作成。また、各コンテスト活動、コラボレーションにも積極的に参加実習することを目的とする。	2・通年	60	2			○	○		○		
	○		服飾造形Ⅱ（選択）	パンツとワンピースを制作しその構造を理解する。 作図理論・パターン展開方法を把握し基本的な縫製技術を習得する。 各自が制作したオリジナルテキスタイルを全体的または部分的に使用させる。	2・通年	120	4			○	○		○		
	○		ドレーピングⅡ（選択）	スカートとワンピースの立体裁断を通して、服作りの基本理論と技術、バランスを理解する。 各アイテムが完成した際には全員の作品を並べて講評会を行い、良いものを見極める目を養う。	2・通年	60	2			○	○		○		
○			色彩論・演習Ⅱ	色彩論・演習Ⅰで習得した色彩の知識や技術を基礎とし発展的に学習する。 テキスタイルの実際制作において必要と考えられる色再現（混色）に対する知識、技術を高めることを目標の一つとする。 また、市場やメディアからのファッション情報を前提とした色彩計画の考え方について演習を通して学習する。	2・通年	60	2	○		△	○		○		
○			ファッションデザイン画Ⅱ	学生のデザインに対するアイデアの可能性を様々な角度から探り、展開していきながら、デザイン画の表現テクニックを身につけることを大きな目標とする。基礎的な内容も取り入れ、個々の学生の表現レベルを確認していきながらデザインテーマをに対して研究する事で、 情報を得て展開の可能性を広げていく。発想する面白さ、デザイン表現をする楽しさを実感していく。 又各種画材のテクニックを学ぶ事で基礎から応用へと進展させ、後半は独自の発想（イメージ）をより具体的に表現できる実力を身に付けて行く	2・通年	60	2			○	○		○		
○			ファッションマーケティング	マーケティングの基本を学び、市場の細分化とその特徴を理解する。 マーケティングのプロセスにそって、市場に適合したブランド設計を行い、目的を実現させるための戦略について学ぶ。	2・前期	30	1	○			○		○		
○			染色文化論Ⅰ	日本の染織文化について年代を追って歴史的に解説する。また、日本の染織文化に影響を及ぼした中国や東南アジアなどの東洋の染織文化や西洋の染織文化のつながりについて触れることにより、深い理解と見識を広げ、染織の文様や知識を身につけることを目指す。 様々な染織の知識はテキスタイルを考えるうえで応用できる基礎的な力を育てることを目標とする。	2・通年	60	2	○			○		○		
○			キャリア開発Ⅱ	・就職活動に必要な、「考える」「聴く」「書く」「話す」「伝える」などのコミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを、講義＋実習を通して身につけさせる	2・後期	30	1			○	○		○		
○			特別講義Ⅱ	通常カリキュラムの範囲外における、テキスタイルに関する情報や知識を学ぶ。 クリエイティブ・テキスタイル、トレンド、服装解剖学、VMD、身体表現、デザイン、立体、造形、編集	2・通年	30	1	○			○			○	

○			校外研修Ⅱ	学外にてテキスタイル産地・業界を見聞することにより視野を拡げ、より多くの専門的な知識を得ると共に就職を見据えてテキスタイルの専門分野を習得する。 尾州産地を中心として、愛知、岐阜、京都、大阪、和歌山など中部・関西圏のテキスタイル産地研修	2・前期	30	1			○		○	○		
○			企業・学内研修	学外にてアパレル、テキスタイル企業の研修することにより、専門的な知識を得ると共に就職を見据えた社会性を研修をとおして習得する。学外、学内研修先を選択する。	2・後期	60	2			○		○	○		
学年合計				16～17科目	1110単位時間（ 37単位）										

授業科目等の概要

（ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			テキスタイルマーチャンダイジング	細かな分業によって成り立つテキスタイル業界の構造と繊維産地における企画、製造について解説していきます。企画プレゼンテーション実習を通して学院で得た技術と知識を応用し、社会に向けたユニークな企画提案が行えるようになることを目標としています。	3・通年	60	2			○	○		○		
○			プリントデザイン演習Ⅱ	プリントデザインの流れは、その時の社会状況を反映し、時には時代のトレンドをリードしている。 ファッションのためのテキスタイルとして、デザインの知識や技法、思想を知ることで各自のプリントデザインの布地製作に活かしていくことを目的とする。	3・前期	120	4		○		○		○		
○			ウィービングデザイン演習Ⅱ	１、２年次の「ウィービング基礎演習」「ウィービングデザイン演習Ⅰ」で学んだ織物構造、デザインの基礎を踏まえ、アパレル製品の素材として織物を大量生産する立場から捉えられるよう指導する。同時に新たな織物デザインの可能性をさまざまな面から追求する。	3・前期	120	4		○		○		○		
○			テキスタイル図案Ⅱ	２年次の演習の上にさらに独自の発想を表現できるレベルに技術を向上させ、テーマ別にターゲット・季節など使用するシーンをこまかく設定した図案を作成することで繊維業界における図案の実際を学ぶ。 プリント演習・服飾造形等他の授業と連携し図案作成からプリント、縫製まで服作りの流れを習得する。	3・通年	60	2	○		△	○		○		
○			テキスタイルクリエイションⅢ	１・２年次で学んだテキスタイルに関する知識、技法を活かし３年次の課題としてトレンドを意識したテキスタイルを制作する。各自がテキスタイル企画から制作までを行い、企画力や技術のスキルアップを目的とする。	3・後期	120	4			○	○		○		
○			テキスタイル商品企画	自分たちでブランドを設定し、ストールを中心とした商品を企画・製作をする。 素材と織組織について理解を深め、生地を企画開発し、商品化に繋げる。	3・通年	60	2			○	○		○		
○			自由研究Ⅲ	各自が卒業制作、就職活動に向けて専門性を絞り込み、研究テーマを決めて情報収集、ポートフォリオなどの作成の時間にあてる。また、各コンテスト活動、コラボレーションにも積極的に参加実習することを目的とする。	3・前期	30	1			○	○		○		
○			服飾造形Ⅲ	ジャケットとコートを制作しその構造を理解する。 作図理論・パターン展開方法を把握し基本的な縫製技術を習得する。 各自が制作したオリジナルテキスタイルを全体的または部分的に使用させる。	3・通年	120	4			○	○		○		
○			ファッションデザイン画Ⅲ	卒業学年ではデザインの現場（社会）で求められる業務内容を課題内容として、プロへの準備段階と考える。 作品レベルでは個性を尊重するが思いつきの内容ではなく第三者の質問に丁寧な説明が出来ることを目指す。	3・通年	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			染色文化論Ⅱ	古代から現代まで時代背景に基づきながら、西洋染織の変遷と特徴を解説します。 各時代の染織模様の由来や象徴性について理解を深めるとともに、過去の染織から学んだ知識を新たなデザイン発想へと 展開させ、さまざまな分野のテキスタイル制作に応用させることを目標とします。	3・通年	60	2	○			○		○		
○			アパレル品質論	テキスタイルやアパレルの企画、製造、販売における品質管理に関する知識を習得し、「関連する法律を理解し遵守する」「お客様の要求品質を満たす」ための活動ができることを目標とする。 講義と演習により理解を深める。	3・前期	30	1	○			○		○		
○			ピンワーク	・ピンワーク習得を通して素材の特性を理解し平面から立体への表現を実感する事で発想や創造力の幅を広げる。 ・テキスタイルの展示会を想定し、企画～資料作成～プレゼンテーション～演出までを身につけ現実的な意識を高める。	3・通年	60	2	○			○		○		
○			特別講義Ⅲ	物作りをする上で有意義な情報や技法を学びとり、個々の創作活動に発展性を持たせる。	3・通年	30	1	○			○		○		
		○	インターンシップ （自由選択）	各自の就職活動の一環として、企業や業種の現場での研修を行い仕事の内容を認識するとともに就職意識を高め活動ことを目的とする。	3・後期	30	1			○		○	○		
○			卒業研究・創作	ファッションテキスタイル科の最終課題として、制作する素材と服のﾃﾞｻﾞｲﾝの調和に重点を置き時代性を加味しつつ独創的で完成度の高い作品を目指す。	3・後期	120	4			○	○		○		
学年合計				14　科目	1050単位時間（　35単位）										
学年合計				48～49　科目	3240単位時間（　108単位）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	最終学年の修了、卒業必須単位数の取得	１学年の学期区分	2期
履修方法：	単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。